

平成 18 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

3 水源環境の保全に関する研究 「丹沢ブナ林の保全対策に関する研究」

[総合評価とコメント]

- なぜ、今、丹沢のブナ林保全に緊急的に取り組まなければならないかについての説明がやや不足しているように思います。
本研究は、オゾンのモニタリングを中心としたブナ林衰退気候の解明と、物理・科学資料によるブナ苗の保護対策の2つが柱になっていると理解しましたが、題目に「保全対策」を謳うのであれば、ブナ林衰退の主要因のひとつになっているオゾンの負荷や濃度を低減させる方策も含めて検討することはできないのでしょうか。少なくとも、なぜ山頂付近でオゾン濃度が高くなってしまったかについての要因分析は必要ではないかと考えます。
- 問題解決のための研究で、具体的な対策まで結びつくプロジェクトと考える。ただ、水環境保全をうたっているなかで、丹沢のブナ林だけを対象とすることで十分なのか、プロジェクト研究としての対象範囲が狭いという印象を受けた。
- 1 ブナ林衰退の諸要因として重視すべきものが、これまでの研究で、整理されてきたことは評価したい。これから必要になるのは、ブナ林復元の対策として、どのような手法が有効かに焦点を当てた研究であると考えられる。復元は難事であろうが、復元のためのさまざまな手法を試み、同時並行的にパイロットスタディをしていくことが望ましい。
2 どの要因が、どの程度影響しているかの把握は、さまざまな対策をとることによって、各要因をコントロールし、対策効果の大小から、要因の寄与の大小を推定するという方法の採用も考えるべきと思う。
- 豊かな自然の象徴としてのブナ林保全のためのデータ収集。
県民の関心が高いテーマだが、ブナ林衰退のメカニズム解明には、かなり時間がかかるのではないかと？
地域の特性なども大きく影響すると思うが、他の自治体などとの連携をしながら、適宜情報を公開して成果の見える研究にしていきたい。
- ブナ林の衰退の原因は非常に複雑なようで、オゾンの影響を判定するのはなかなか難しいことだと思われます。しかし、ブナ林の衰退は、県民の関心も高いと思われるので、原因の解明が進むことが期待されます。健康と思われるブナ林でのオゾン濃度との対比も有効なのではないかと思われます。
- 樹林の衰退は、種々の要因が複合していることは神奈川県のもこれまでのにも明らかになっていると思われる。その重点の一つにオゾンを設定することには首肯できるが、複眼的考案が不可欠と思われる。

(数値的評価)

★評価者 6名

<評価の内容>	<評価項目>	<ランク>				
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (1人)	4 (4人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
	○優先性	5 (1人)	4 (3人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)
計画の立案と実施法	○研究内容	5 (1人)	4 (2人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)
	○計画の妥当性	5 (0人)	4 (3人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)

※ランクは、5点満点の評価で5(優)～1(劣)